

幼児教育研修（幼児保育 1・2回）

受講者合計数 104名

日時 11月8日（火）・22日（火） 15:00～17:00

場所 足立区生涯学習センター

講師 千葉経済大学 短期大学部 こども学科 教授 横山 洋子 氏

【内 容】～子どもの発達と保育者の関わりについて～

保育者は、一つの場面で一つの援助しかできません。保育者の援助の意図や子どもの姿など、具体的に記録を書くことで、見えないものを浮かび上がらせます。過去の自分を客観的に見つめ、よりよい保育をするために、他の援助の可能性を考えます。また、子どもの姿の変容前と変容後を記し、何が支えとなって変わったのかを探ることも大切です。エピソード記録を書くことの意味や留意点について学び、持ち寄った事例を掘り下げながら理解を深めます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・記録は何のために書くのか再確認し、書いて終わる記録ではなく、子どもの姿や育ちを確かめ、指導方針やねらいを立てるための記録となるように努力していきたい。（1回目）
- ・書いて終わりにするのではなく、クラスの職員と一緒に再度考察するなど記録を活用し、共通認識をもって保育に取り組めるようにしていく。（1回目）
- ・「書くことで見えないものを浮かび上がらせる」という言葉が響いた。子どもたちのために、また、自分のために書く努力をしていきたい。（1回目）
- ・エピソード記録はただの感想文ではない。書いているうちに思考が整理され書き終えた後にいろいろ見えてくる。記録することだけにとどまらず、第三者の視点が入れると良い。そのためにはまず日々のエピソード記録を改めて見直し、考察のスキルを高めていけるようにしたい。（2回目）
- ・エピソード記録を書く時は、小説のように情景が目浮かぶように書く。自分の価値観は入れずにありのままの事実を書く。まずは誰が読んでも情景が思い浮かんでくるような書き方を意識したい。（2回目）
- ・エピソード記録から、その時の状況や環境構成を共有し質問したり共感したりしたことで、自分だけでは考えられなかった考え方や知識を見つけることができた。（2回目）